



吉野町内の
古代ゆかりの場所・伝説地
(場所はおおよそです。詳しい場所が分からないものもあります)

吉野町内の古代ゆかりの場所

■壬申の乱（飛鳥時代）、そのとき何があった？ 吉野では？

天智天皇の時代、次期天皇の候補が二人いました。一人は、天智天皇の弟で皇太子だった大海人皇子。もう一人は、天智天皇の子とも太政大臣であった大友皇子です。671年、病床にふせる天智天皇は、大海人皇子をよびよせ、「後のことを頼む」と伝えます。しかし、事前に「注意してお返事してください」と忠告を受けていた大海人皇子は、「後のことは大友皇子に任せるべきだ」と辞退し、自らは出家して吉野に入り、天皇の回復を祈りたいと願い出たのです。

間もなくして、天智天皇がお亡くなりになりました。しばらくして、吉野で過ごす大海人皇子の耳に、「大友皇子が吉野を攻めようとしているのではないか」との報告が入ります。事実を確認し、どうやら本当らしいと判断した大海人皇子は、吉野をのがれて一路、不破（関ヶ原）を目指します。そして、東国（東海地方以東）の人びとを味方につけ、大友皇子のいる近江宮へと攻め込んだのです。

戦いに勝った大海人皇子は、即位して天武天皇となります。都を藤原京に遷し、様々な制度を整えるなどして、国の運営にまい進されたことで知られます。

ちなみに吉野では、大海人皇子が吉野にいた頃、大友皇子がミルメとカグハナというお供を伴い追ってきたという伝説があります。また、大海人皇子が過ごした吉野宮は、ながくどこにあったのかが分からなかったため、各地に伝説が残ります。

■古代（飛鳥〜奈良時代）の主な人物

- 大海人皇子…天智天皇の弟。壬申の乱で勝利し、即位して天武天皇となる。
- 大友皇子…天智天皇の息子。壬申の乱で命を落とす。
- 天智天皇…乙巳の変に関与した中大兄皇子の、即位後の名前。
- 大伴旅人…令和ゆかりの梅花の歌の序で有名。公卿。歌人。

- 【その他】
- 聖徳太子…十七条憲法や官位十二階の制定で著名。厩戸皇子。
- 久米仙人…吉野で修行した仙人。のちにワケあって還俗した。



■壬申の乱の経過と吉野宮のできごと（年表）

年	月	内容
645	6	乙巳の変が起こる。蘇我入鹿らが殺される。
645	9	身の危険を感じた古人大兄皇子、吉野に入る（比叢寺か）。しかし、謀反の疑いがかけられ、中大兄皇子により兵が出され、殺害される。
656		齊明天皇、吉野宮をつくる。
659	3	齊明天皇、吉野宮へ行幸。
668		中大兄皇子、即位して天智天皇となる。
671	10	病床の天智天皇、大海人皇子をよび、「後のことを任せる」と告げる。しかし、危険を感じた大海人皇子は辞退し、天皇の息子の大友皇子に任せるよう返事する。その後、大海人皇子は出家して吉野宮に入る。
671	11	蘇我赤兄など5人の大臣、大友皇子の前で結束を誓う。
672	12	天智天皇、崩御。
672	5	大海人皇子、朴井連雄君より、近江京で不穏な動きがあると報告をうける。
672	6	大海人皇子、吉野宮を出発して不破（関ヶ原）を目指す。壬申の乱がはじまる。
673	7	大友皇子、自害する。壬申の乱が大海人皇子の勝利で幕を閉じる。
673	8	大海人皇子、即位して天武天皇となる。
679	5	天武天皇、吉野宮へ行幸。皇后と6人の皇子を集めて、結束を誓わせる。
686	10	天武天皇、崩御。
690	1	天武天皇の皇后鸕野讃良が即位して、持統天皇となる。
701	2	持統天皇、吉野宮へ行幸。以降、697年までたびたび行幸が行われる。
702	6	文武天皇、吉野宮へ行幸。
702	7	文武天皇、吉野宮へ行幸。
723	5	元正天皇、吉野宮へ行幸。
724	3	聖武天皇、吉野宮へ行幸。
736	6	聖武天皇、吉野宮へ行幸。以降、吉野宮行幸は行われなくなる。

【吉野山地区】

青根ヶ峯 『万葉集』巻7・120の歌「み
芳野の青根が峯のこけむしろ…」にある「青根
が峯」とされています。この山は分水嶺にもなっ
ていて、文武天皇が馬を献上して雨を祈った場
所も、この青根ヶ峯だったと考えられています。
その青根ヶ峯が、吉野川筋で唯一見える宮滝だ
から、吉野宮が造営されたとも言われています。



金峰神社 聖徳太子が
黒馬に乗ってこの神社を訪
れ、拝んだといひます。そ
の時、次のようなことを語っ
たといひます。「この神社の神
が、この山へ天下られたの
は、弥勒菩薩をお守りする
ためだ。欽明天皇の時代、インドの靈鷲山にあ
る金剛窟の北東の角が破裂し、海を越えて、吉
野山にたどりついた。その土はみな黄金であつ
た。この黄金は、弥勒菩薩が仏教をたてなす時、
この人間が住む世界に敷きつめるためのものだ。
その時までこの金を守るために、この場所へ降
り立たれたので、金精大明神とられたのだ。」

櫻本坊 吉野山では、大海人皇子が過ごした
吉野宮は吉野山にあつたと言われてきました。
大海人皇子が吉野山の日雄殿で過ごされてい
た冬のある日、皇子は桜が咲く夢を見ました。
翌朝、向かいの山をご覧になると、本当に一本
の桜が咲いています。不思議に思った皇子が、
角乘（役行者の弟子）に占わせたところ、桜は
花の王なので、皇子が天下に出る兆しだったと

とが由来で、花籠神社と名付けられました。（他
の説もあります）

三船山 『万葉集』巻3・242の歌などで詠
まれる「三船の山」がこの山だと言われています。

宮滝遺跡 吉野宮跡とされている遺跡です。

矢治峠 壬申の乱の時、宮滝を出発した大海
人皇子が津振川に向かって越えた峠とされます。

梁瀬 『万葉集』巻3・388などで歌われて
いる、漁師と仙女が出会った場所だと伝わりま
す。花籠神社のあたりの川辺をさします。また、
菜摘を流れる吉野川は、菜摘川とも呼ばれたよ
うで、この名前も『万葉集』などでみられます。

夢のわた 『万葉集』巻3・395など、大伴
旅人ら葉歌人が歌を詠んだと伝わる場所です。

吉魚張山（船張山） 『万葉集』巻10・2207
の歌「…吉隠の夏身の上に時雨降るらし」にあ
る吉隠が、この山だと伝わります。（諸説あり）

【国栖】 大海人皇子を追いかけてきた「嗅ぐ鼻」
の犬を、国栖の翁はあやしむ犬だと殺してしま
います。後に、この犬は大海人の愛犬であった
ことが分かり、この場所に葬ったと伝わります。

嬉し峠 大海人皇子が通った峠といひます。

いひます。その後、皇子がご覧になった桜の場
所に一寺を創建したのが、櫻本坊の始まりと伝
わります。今も、櫻本坊では文武天皇のご神像
がまつられ、春には文武天皇の例大祭が開かれ
ています。ちなみに、創建当初の櫻本坊は吉水
神社と勝手神社の間あたりにあつたといひます。

袖振山 文武天皇が勝手神社の前で琴を弾く
と、天女が天下り、羽衣の袖を5回翻したため、
袖振山の名前がついたといひます。このことは、
今、宮中の五節の舞の起源とされています。

高城山 『万葉集』巻3・393の歌にある高
城の山にあたるかとされています。

竹林院 聖徳太子の創建と伝わります。創建
時は椿山寺というお寺でした。

稚児の松 聖徳太子が化生の岩屋という場所
を通ると、鬼子に憑りつかれて苦しむ女性がい
ました。太子が見ると、鬼児はするどい牙で女
性の胸にかみついているではありませんか。太
子が呪文を唱えると鬼児がおち、今、稚児の松
とよばれる松の根元に捨てさせたと伝わります。

人丸塚 柿本人麻呂にゆかりのあるものとし
て、古くから信じられていたらしい。詳細は不明。

日雄 勝手神社の前を下市町の方へ下つてい
く途中に、日雄という場所があります。この場
所にかつて、日雄殿という建物がたつていたと
いい、大海人皇子が過ごされた吉野

片腹淵 国栖の翁が献上した鮎
を、大海人皇子が片身だけ食し、残りをこの淵
に投げ入れたところ、片身の鮎が泳ぎだしたと
伝わります。

衣笠山 大海人皇子が、今の浄見原神社のあ
る場所で数日、身を潜めておられたとき、天女
が舞い降り、この山に衣をかけたと伝わります。

浄見原神社 大海人皇子が国栖の翁たちに
匿われた、という場所にたつ神社です。今日も、
宮中で奉奏した国栖奏を旧暦正月14日に、この
神社で行っています。祭神は文武天皇です。

御霊神社 大海人皇子を救った国栖の翁をま
つる神社です。犬塚の一件があつたため、今も
犬塚のある窪垣内では犬を飼いません。この御
霊神社でも、狛犬が置かれていないのです。

入野峠 壬申の乱の時、吉野宮を出発した大
海人皇子が津振川に向かって進んだとされます。

ジジ河原・ババ河原 国栖に逃れた大海人
皇子を、国栖の翁が船の下に置った場所だと伝
わります。皇子の隠れる船を嗅ぎまわった、敵
方の「嗅ぐ鼻」の犬は、この場
所で翁に殺されたといひます。

司馬の野 『万葉集』巻10・
1919の歌にある地名です。吉野
町国栖（もとは野々口）の辺り
にあつたと伝わります。



吉野町内にのこる 古代ゆかりの場所 伝説がのこる場所

宮はこの場所だったと、伝わっています。

耳我峰 『万葉集』巻1・25に「み吉野の耳
我の嶺に…」という歌があります。この歌の類
歌である『万葉集』巻13・393では、「耳我の
嶺」が「御金の岳」に変わっています。このため、
「みみがのみね」は「御みかねのみね」のことで、
後に金の御岳と呼ばれた吉野山（または大峰山）
のことだ、という説があります。（諸説あり）

御影山 袖振山で天女が舞った後、天女の影
がこの山に遷ったので御影山といったそうです。
古記録によれば、勝手神社の社の左にあつたよ
うですが、今は見当たりません。削平されたと思
われます。

御船山 豊臣秀吉の頃、吉野山からみえるこ
の山が、『万葉集』にみる御船山と考えられてい
たようです。この頃は宮滝でなく、吉野山が吉
野宮跡と考えられていました。歴史的に見れば、
他にもいくつかの候補地が挙げられています。

吉野山の桜 大海人皇子が吉野山の日雄寺
にこられたとき、桜にまつわる古事があつた。
このため、皇子は桜を霊木として愛育したので、
吉野山は桜の名所になったともいひます。

【水分・上市】
六田 『万葉集』巻7・1105の歌などで詠ま
れる、「六田の淀」の場所とされています。

天皇淵 国栖の翁が献上
したウグイを、大海人皇子が
片身だけ食べてこの淵に放つ
たところ、そのウグイが泳ぎ
だしたと伝わります。



林泉寺 大海人皇子が、庚申堂のあるところ
で60日の間、追手から身を潜めたと伝わります。
耳我峰 『万葉集』巻1・25の歌にある「耳
我の嶺」はこの山だと伝わります。（諸説あり）
和紙づくりの技術 今も国栖地域で行われ
ている紙漉きは、大海人皇子から技術を教わつ
て始まった、と伝わります。

【龍門】
芋ヶ峠 大津宮を逃れた大海人皇子が、吉野
入りする時に越えた峠と言われています。

宇治間山 『万葉集』巻1・75の歌「宇治間
山朝風寒し旅にして…」の宇治間山は、吉野町
千股にあつたと伝わります。（場所は不明です）

金福寺 大海人皇子が大津宮を逃れて吉野に
入られた時、大友皇子が「見る目」の鷹と「嗅ぐ鼻」
の犬をお供に追ってきたといひます。この寺の
辺りで大海人皇子を見失った大友皇子は、腹い
せに鷹を殺したと、寺の縁起で伝わります。そ
の鷹を埋めた場所は鷹塚と呼ばれ、金福寺の境
内のどこかだと言われています。また、この寺

ふなはり山 『万葉集』巻
2・203の歌「…吉隠の猪養
の岡の…」の吉隠が、飯貝のこ
の山だ、と古くは言われたよう
です。（諸説あり）



【中柱】
秋戸河原 宮滝の西部から対岸の御園にかけ
ての河原の名前です。「日本書記」で、吉野宮は
「秋津」という場所にあつたと記されていますが、
その言葉がなまって「秋戸」になったといわれ
ています。

石倉 吉野町楠井の県道の北側にみえる、高
い岩です。「万葉集」巻7・1398の歌などにみる、
「いわくら」だと伝わります。（諸説あり）

象山 『万葉集』巻6・924の歌などで詠ま
れる、「象山」にあたるかとされています。

桜木神社 大海人皇子が、この場所にあつた
桜の木の下に身を潜め、追手をやりすごしたと
伝わります。また、社前を流れる象の小川は、『万
葉集』の歌が詠まれた場所でもあります。

中柱の温泉 小笠原好彦氏の説で、持統天
皇がたびたび吉野宮を訪れたのは、温泉が目的
だったのではないかとされています。（諸説あり）

花籠神社 吉野山の子守明神の関係者が花
籠をつくり、その籠を大海人皇子に差し上げ
たところ、たいそう喜ばれたそうです。このこ
ろ、たいそう喜ばれたそうです。このこ

がある「志賀」の地名は、文武天皇が、この地
の人々の志を質したことが由来だと伝わります。
大海寺 大名持神社の境内にあつたお寺で
す。大海人皇子が追手から逃れるために、身を
潜めた場所と伝わります。

津風呂川 今、津風呂湖となっている場所は、
津風呂という谷間の集落でした。そこを流れる
津風呂川は、『日本書紀』で大海人皇子が通つた
と記される、津振川のことだと言われています。

耳我峰 『万葉集』巻1・25の歌にある「耳
我峰」は、芋峠を越える時に見える、細峠のあ
たりの山だ、という説があります。（諸説あり）

龍門寺 吉野の古代寺院。龍門岳中腹の龍門
の滝の上であり、塔跡などが残ります。義淵僧
正の開基で、久米仙人が修行したと伝わります。

龍門岳 日本最古の漢詩集「懷風藻」で、大
友皇子の息子である葛野王が詩をよんだ山です。

【中龍門】
国造神社 文武天皇の行幸があつたと伝わ
る神社です。

三茶屋 壬申の乱の経路である津振川から宇
陀の吾城のルートで必ず通る地点です。

光林寺 義淵僧正の開基で、本尊薬師如来は
聖徳太子の作と伝わります。

